



高齢者が増え、投票所までが難儀 (期日前投票・名野川出張所)



投票所へ

バスで送迎はできないか

答 全国的にも例はない

問 岡田良成

高齢者は投票所が遠く、投票に行きたいが行

けないのが実状である。投票所へバスの送迎はできないか。片道4キロ程歩いて投票所に行く集落がある。

ほとんどが高齢者であり歩いて行くには厳しい状況で、タクシーでは行けないし、他人の車で行く選挙違反と思われる。バスで送迎ができないか。

答 総務課長

対応は、昨年度、統合を行った際に各集落に移動投票所の設置を検討したが、我が国は一投票区一投票所主義で、投票所の閉鎖時間等の制約があり、現在の公職選挙法では移動投票所は想定されておらず、法を改正しない限り困難である。バスの運行は、選挙の性質上、全集落を対象にしなければならず、基準作りが大変となる。県に問い合わせましたが、全国的にも例はないようである。

現状では近所の人、親類や家族の車で投票所に行く事しか方法はないと思う。

問 岡田

困った人がいれば、手厚い行政ができないのか。仁淀川町だけバスの

運行があってもいいのではないか。法的に可能であれば前向きに検討し、町民の心をくんだ行政はできないか、もう一度答弁を。

答 総務課長

選挙管理委員会で協議



地上デジタル放送への

対応は

答 21年度中に全町で受信可能

問 西森久雄

答 企画課長

平成二十三年七月二十四日には、地上デジタル放送に変わる。住民はどのような準備が必要か。子どもからお年寄りまで、テレビが映らなくなる不安を抱いている。町は、対策をとっているか。

二十三年、現在のアナログ放送が全て終了し、デジタル放送となる。高知県では高知市を中心に地上デジタル放送が開始され、本町でも来年度に吾川中継局が、再来年度には池川、仁淀中継局が整備される予定となっている。

地上デジタル放送を視聴するには、テレビをデジタル放送対応であるか、デジタル対応テレビにするか、デジタルチューナーをテレビに付ける必要がある。また、共聴施設を利用してある場合は、施設の改修も必要となってくる。

現在、これらの点につき勉強中であり、その内容は、順次、町民に周知していきたい。

問 西森(久)

地上デジタル放送を視聴するには、テレビをデ





平成23年アナログ放送が終了する。中継予定地（桜）

れば良いが、チューナーを接続しなくてはいけないテレビは、チューナーが一台四〜五万円位すると思う。

国、県の補助はないものか。一世帯当たり三万円位補助してはどうか。

答
企画課長

補助金は、検討中だが、国の補助制度がはっきりしない部分もある。制度が固まったら、広報して行きたい。

活用されていない、町有地や建物がないか。利活用が望めないのか。であれば、更地にし、借地であれば地権者に返還し、競

問

農本規仁



借地の整理は

答 努力する

売や交換などの方策は。三地区二千三百万円余りの借地料が町財政にとって大きな出費となるが、担当課長だけでなく、町長、副町長も足を運び、地権者に理解を求めることが重要ではないか。

答

町長

財産台帳を統一する作業を行い、各地域での有効な活用方法や他の用途への変更を検討しているが、競売や交換の処分も随時行っていきたい。

箱物には、起債、補助金で事業を行っているため簡単にはいかないが、処分方法を見いだしたい。

答

総務課長

箱物は新たな施設としての活用の検討を行い、土地は、利用の可能性がない場合、借地の代替地としての活用や売却の検討も行う。交換・売買は、地権者と粘り強く交渉する。

団塊の世代の大量退職時代を迎え、農山漁村へ

問

農本

二地域居住者への対応は

答

仁淀総合支所長

仁淀の旧建設省跡地は、不動産鑑定士の評価も出ており、議会終了後、話し合いを予定している。



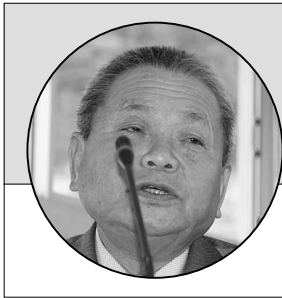
旧建設省跡地（森）

二地域居住者のためには、仁淀で三戸、池川では五戸、県住でも二戸の空き家がある。

答

町長

の定住者が一五〇万人、二地域居住者が三〇〇万人増加すると政府は見込み、農山漁村活性化プロジェクト支援金を用意している。事業を先取りし、農地付住宅などを情報発信し、一年でも住んでいざれ定住してもらおう事業や、政策が必要と考えるが。



大型合併どう考えるか

答 大きければ良いというものではない

問

大原儀郎

高齢化社会をどう支えて行くのが山間地域にとって最大の課題だ。町長は、県が推進しようとしている高知県を六つに分割し、市にする超大型市町村合併をどう思うか。

十年後は 財政がパンク

特別会計介護保険事業や、老人保険事業は17年から19年の二カ年の当初予算が約26%、29%の伸びとなっている。このまま十年先を考えると膨大な予算となり、町ではまかないきれない状態になると思うが。

町有林を伐採 して 財源の一部に

高齢化社会に対応する施策を早急に打ち立て、財源の一部として、伐期の町有林を伐採し活用してはどうか。

杉、桧は植え過ぎ、谷川の水が枯渇し、魚や小動物が激減している。全伐する事で自然環境が甦る実証実験にもなり一石二鳥と思う。

基金を早急に 取り崩して

町の有する目的別基金があるが、将来を見すえた構想を早急に樹立し、それを当て、先に見える町を構築すべきではないか。

三つの提案

若者が本町で定住して高校、大学まで進学でき安心して子育てのできる町づくり。

ＩターンＵターンの希望者を受け入れる対策として

一、奨学資金制度の抜本的見直し。
二、土地付一戸建住宅の建築。

三、これらに対応する専従班の設置などに積極

的に取り組んではどうか。

県内六市の構想

答 町長

県の合併構想だが、ただ合併し大きくなり、それで良いというものではない。

将来どのようなものかを考えなければならぬ。

人口定着の問題は、いろいろな角度から見ている。本町に家がありながら、町外へ住居を移し、通勤している者もいる。

簡単にはいかない

土地付の家を構えたら定住してもらえないか、簡単にはいかない面もある。

伐採しても 金にならない

町有林は千ha位はあるが、金になる所は多くはないと思う。

基金は急いで 活用する

基金は、町の財政状況を勘案しながら有効活用を考えているが、特に地域振興基金は、活用方法を早期に計画をしたいと思っている。

魅力ある町づくりを推進

答 教育長

奨学金制度は、産業低迷に依り、奨学金などの利用を検討する家庭も多くなると思うがこれには償還も伴う。Ｕターンした場合、返済免除などの支援制度も考えられるが、卒業後、どこに就職

し、居住するか、諸条件を考えた時、職場の確保や、この町に住みたくなる魅力あるまちづくり施策を推進する必要がある。

人口激減 2035年

高知県は 60万人を割る

答 企画課長

人口激減は国全体の事だが、高知県は二〇三五年には六十万人を割る試算が出ている。その中で町は高齢者比率がすでに四七%を越えている。

高齢化社会で、一番恐れるのは精神的衰退と停滞化で弱っていく状況だ。

団塊の世代の大量退職に伴い、二地域往來型、二地域居住型など、都市と田舎を行き来する者が増える事も考えている。



スクールバス事故 判決に口出しはできないが

答 驚いている

問

若藤敏久

事故の現場検証や裁判に口出しできる立場ではないが、禁固一年四月の実刑とは信じられない判決だ。

和解交渉も遅れており、被害者の遺族が仁淀川町を相手に民事訴訟を起こしたが、事故直後の対応は万全であったか。判決の率直な考えを聞きたい。また民事の被告となり今後どのような対応をとるのか。

答

教育長

事故の報を聞きすぐに、代替バスの手配と保護者への連絡を行った。

翌日遺族と面会し、お通夜、葬儀に参列した。その後、再三運転手から遺族に弔意を伝えたい旨のお願いもしたが、その心境ではないと断られている。

三月、四月、五月と公判を傍聴したが、交通事故は双方に何らかの過失があるという認識があり、100対0で全面的にバ

スの運転手の責任だという今回の判決には正直驚いている。民事は弁護士と相談し、早期解決に向けて対応する。

ブレーキ痕は 確認したか

問

若藤

過失割合が100対0の交通事故などまず有り得ない。運転手が逮捕された瞬間に「運転手さんは悪くない。止まっていたバスにバイクが衝突した。」と言って泣き出した生徒もいたと聞く。

この生徒が社会人となったとき、世の善悪を判断するわが国最高峰の司法を信頼できる人間に成長されるか疑問に思う。

対応のマズサ

事故直後の対応だが、教育長は現場へ直行し、事故現場の確認をすべき

だったのではないか。

停止していたバスに何故ブレーキ痕があるのか。たとえ急ブレーキを踏んだとしても時速50キロメートルでブレーキ痕が付くのか不可解な事件だ。通常ブレーキ痕は数カ月や半年は消えないはずだが、翌日現場でブレーキ痕の確認をしたか。

ブレーキ痕を確認した記憶はない

答

教育長

公判で校長と教諭が証言台に立ち「バスは止まっていた。バスの後を何台か車が通過した」と証言をした。この証言が取り入れられるものと判決を聞きに行ったが驚きの結果となった。

校長の証言は何だったのか

「バスは止まっていた」と証言した方達は一体な

んだったのかと思う。

現場に直行すべきだったと反省をしている。当時はブレーキ痕が問題になるとは思わなかったが、翌日町長と事故現場の確認をした際にはブレーキ痕があったという記憶はない。

目撃者の証言が無視されている

問

若藤

判決では「運転手に反省がない」となっているが、運転手は反省し、四十九日までは喪に服し外出もせず、行政処分にも納得できないが全て受け入れている。起訴され、検察庁で初めてブレーキ痕の写真を見たといっている。

天下の警察がブレーキ痕を捏造するはずはないが、事件当夜から翌日以後にかけて、ブレーキ痕を確認した者がおらず、事故現場写真にブレーキ痕があるのか不思議に思う。

100対0の悪質な事故なら、陸運局から何らかの処分があるはずだが、タクシー会社にはそれもない。

目撃者の証言が全て無視されている現況の中、町として最善の対応を。

安全なバス運行を心掛ける

答

教育長

今後は事故を起こさない、安全なバス運行を周知していく。

めでとう

清一氏(川口)が瑞宝双光章を受章

諸般の報告 町長 藤崎富士登



(6月29日・池川中)

ってきました。おじゃみも教えてくれました。

春の叙勲おめでとう

西森豊作氏は昭和三十八年仁淀村議会議員に当選以来二十四年余その要職にあり議長等を歴任した。六十二年からは八年間仁淀村長の職にあり、地方自治の発展に寄した功績が多大であるとして旭日小綬章を受章した。

た。

藤原清一氏は、昭和二十七年九月に消防団員を拝命以来、五十三年余、大崎村、吾川村及び仁淀川町の団員として活躍。その間、大崎分団長、吾川村消防団長、初代の仁淀川町消防団長を歴任し、消防活動に従事した

功績が認められ瑞宝双光章を受章した。

仁淀中学校スクールバス事故その後の経過

事故により、若い高知県警察機動隊の巡査長が亡くなった。運転手は起訴され六月七日に判決がおりた。交

通事故の恐ろしさを改めて痛感している。補償交渉は、高知県町村共済自動車事故処理対策室が弁護士に依頼し、裁判を行うことになっている。対策室や弁護士と連絡を密にし、対応にあたっていきたい。

税の収納状況

現年度課税分の収納額は、約五億五千万円で収納率は99.2%県下では上位に入ると高い徴収率となっているが、滞納繰越額は一千万円を超えており、税負担の均衡を図る上でも、今後一層の滞納整理を行うことが重要と考えている。

金子直吉翁記念公園建立事業その後の状況

金子氏の関係者に面会して情報収集や協力依頼が重要と判断し、金子氏の秘書を務めた松下重男氏や、大番頭であった柳田富士松氏の孫、柳田辰己氏に会い、重要な情報を得た。今後は、金子氏の直系の親族や辰己会の会長鈴木春男氏など関係者に会い、情報収集と

春の叙勲お

一 西森豊作氏(森)が旭日小綬章を藤原



瓜生野に行ってきました
瓜生野のおばあちゃんたちが、朝早くから料理をつく

もに、実行委員会の設立
に向け準備を進めたい。
しもなの郷
その後の状況
発足以来二年余り経過
したが、黒字経営で地域
住民の努力に頭が下が
る。

しもなの郷は電波雑音
の少ない環境の良さを利
用し、高知工専など関係
者により惑星など地球外
から来る宇宙電波の観測
が、数年前から行われて
おり研究者の間では有名
な場所となっている。
新たに大規模な観測設

備を設置し宇宙電波観測
所となることが決定し
た。貴重な地域資源にな
る可能性があり、可能な
支援をしていきたい。

バイオマスエネルギー
実験事業
本年度より二十一年度

までの実証試験に向け、
準備が整い、四月よりガ
ス化発電並びにペレット
製造設備の運転が始まっ
ている。
九月頃まで稼働率を
50%、十二月までに100%
の予定。五月十八日関係
者約七十人が出席し火入
れ式が行われた。林業界
も厳しい状況に置かれて
いるが、豊富な森林資源
を活かした環境づくりと
雇用の場の一環として取
り組んでいく。

環境先進地企業との 協働の森づくり事業

五月十八日川崎重工業
(株)及びカワサキプラント
システムズ(株)、高知県及
び本町との四者間で協働
の森づくり事業協定締結
式が行われ、二十一年度
までの協定を結んだ。

この事業は京都議定書
によるCO₂排出削減に対す
る企業参入の考えから、
今後三年間に両社から六
百万円の寄付で長坂山町
有林約70haの環境整備と
定期的な森林体験並び
に、町民との交流を図る。